Min pokyo
公益社団法人
倉敷市民間保育所協議会
令和８年９月10日　No.100

ふれあい

「創立五十周年の節目を迎えて」

公益社団法人 倉敷市民間保育所協議会　副会長　武部　登志子



昭和五十五年創刊の機関紙「ふれあい」が第百号を迎えました。また、令和五年に協議会が創立五十周年を迎え、令和七年には当園も開園五十周年という節目を迎えることができました。長年にわたり当協議会と当園を温かく支えてくださった関係者、地域、保護者の皆様に心より感謝申し上げます。子どもたちの健やかな成長を願う想いを胸に、地域とともに歩んできたこれまでの道のりと想いを振り返らせていただきます。

昭和五十二年四月一日、定員六十名の保育園として当中島保育園は開園しました。当時、利用されていた家庭は、年中・年長になると幼稚園に転園されるお子様が大半で、就学前まで在籍されるお子様は三名程度の少人数という状態でした。しかし、女性の社会進出の増加に伴い、入園希望者が増加し、平成五年に乳幼児室二十平米の増築など行い、平成十五年に七十五名、平成十八年に八十五名、平成二十七年に九十名の定員増の変更を致しました。土地の確保が出来ない中、これ以上の増築は行えず、三歳以上児のクラスは二部屋しかないため、異年齢児保育に切り替え、増員に対する工夫をしながら保育を行いました。同年齢での活動時間は部屋数が足りず、室内と戸外に分かれて行っており、当日の天候に左右しながら過ごしたり、行事においては遊戯室がないため、生活発表会などに支障が出るなど、保育がしにくい状態で子ども達が笑顔で安心して過ごせる環境づくりを職員全員で考え、試行錯誤しながらの毎日を過ごしておりました。

生前、父より園舎拡張の計画を考えて、園舎西側の土地の一部を分筆してもらっておりました。その土地の間に倉敷市所有の農道が通っています。当時は地域の方が利用されており、賛同が得られませんでした。時が流れ、地域の方々のご協力、ご理解の下、買収が出来る運びになると同時に、中島・中洲・西阿知地区の待機児童解消対策の整備計画を知り、この計画に参加してみたいという思いが生まれました。

保育がスムーズに行える施設に建て直し、環境を整えることで待機児童緩和への協力が行えると考えました。当園の保育理念は、「子ども一人一人を大切にし、保護者から信頼され、地域に愛される保育園を目指す。」この保育理念をもとに、より一層の保育の充実を図っていきたいとの思いから、増改築が実現した場合、現在の保育実践の中で、保育室などの使い勝手の不便さや、保育のやりにくさを反省し、子ども達によりよい保育が行えるよう、設計会社、建設会社の担当者や当保育園の職員と共に、保育室・給食室などの動線を考えた間取り、乳幼児の安全確保が第一と考えた設計をしていただき、令和二年四月一日、定員百二十名に変更して新たに二階建ての新園舎にてスタートした次第です。

地元中島学区には、中島学区コミュニティ協議会という組織があり、学区に在住されている方々の代表約四十名が毎月開催される定例会に出席し、夏祭りや敬老会など世代を越えて人と人がつながる行事や、安心・安全なまちづくりに向けた活動がたくさん計画されています。当園も役員の一員として、青少年育成部に所属しており、当園の子ども達も夏祭りなどの行事に参加させていただいています。

また、敬老の日の行事の一端として始まった特別養護老人ホーム「ますみ荘」へ、四・五歳児の園児が訪問させていただき、歌や楽器演奏の披露や、入所者の方とふれあい、楽しい一時を過ごさせていただいています。四十数年続くこの交流は、入所者の方々も楽しみにしておられるとのことで嬉しく思っています。

小学校との連携では、保育園を卒園後は学童保育を利用される方が多く、地区内に二ヶ所の学童保育の施設が有り、二施設の委員会に参加し、利用状況などの報告を受けたり、情報交換して交流を計っています。

私達が出来ることは、一人一人を大切にし、個人差も考慮しながら、子どもに応じた支援をし、愛情を持って成長を支えていくことではないかと考えています。同時に地域の方々の温かいつながりを大切にしながら、その一端を担うべく皆様に愛される保育園であるように、歩みを進めていきたいと思っております。

新見芳枝先生　瑞宝単光章　受章



この度、長年にわたり、児童福祉の発展に尽力されてこられました竜王保育園園長、新見芳枝先生が、令和七年秋の叙勲におかれまして、栄えある「瑞宝単光章」を受章されました。昭和五十年に竜王保育園へ入職されて以来、半世紀以上にわたり地域の子どもたちや保護者に寄り添い続けてこられた功績が、高く評価されたものと存じます。心よりお慶び申し上げます。

社会福祉法人寿宝会竜王保育園（倉敷市児島小川）は、昭和二十三年の開園から七十八年の歴史を持つ大規模保育園です。新見先生は保母として入職後、昭和六十三年に主任保育士、平成十七年四月から園長に就任され、聡明で温厚篤実なお人柄と揺るぎない信念をもって、今日まで子どもたちの幸せを願い献身的に取り組んでこられました。

一時預かり保育、休日保育、延長保育、障がい児保育など、多様化する保育ニーズに応えるため積極的に事業を展開し、地域の子育て支援体制を築き上げ、平成十九年には倉敷市委託事業「竜王地域子育て支援センター」を開設、子育て家庭が気軽に集い交流できる拠点づくりにも尽力されました。

また、外部の専門講師によるマーチングや絵画指導などを保育に取り入れ、子どもたちが自分の「好き」や「得意」を伸ばせる環境作りを大切にされています。令和元年には、老朽化した園舎の建て替えにも着手され、設計段階から参画。現代の保育ニーズに寄り添った新園舎が完成し、地域のモデル園として注目を集めています。

子どもたちへの深い愛情と、常に前向きで柔軟な姿勢を持ち続ける新見先生。どうぞ、いつまでもお元気でご活躍くださいますとともに、私ども保育関係者へ変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

新任・転任園長先生の紹介

○正会員園 新園長



保育所型認定こども園　三和保育園　**松本 道子先生**

このたび、三和保育園の園長に就任いたしました。子ども一人ひとりの育ちに丁寧に寄り添い、家庭的で温かな環境の中、保護者の皆様や職員と力を合わせ、笑顔あふれる園づくりに努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



わかば保育園　**津田 定子先生**

園事情により、再び園長として就任することになりました。子ども・保護者・職員にとって、わかば保育園で過ごした日々がステキな宝物になるように励んで参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



親和保育園　**重本 優子先生**

このたび親和保育園園長に就任いたしました。これまで以上に地域とのつながりを大切にしながら、子ども・職員・保護者の方々が安心して楽しく過ごせる園づくりに努めてまいります。よろしくお願いいたします。



乳児親和保育園　**重本 和男先生**

歴史ある当園の伝統を大切に引き継ぎながら、少子化や時代の変化に柔軟に対応してまいります。子どもたちの笑顔を守ることはもちろん、職員にとっても働きやすい環境を整え、皆が笑顔で過ごせる温かい園作りに努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



小ざくら乳児保育園　**安 知子先生**
(R8.6.1～)

このたび、小ざくら乳児保育園の園長を務めることとなりました安知子です。子どもたち一人ひとりの育ちを大切にしながら、保護者の皆さま、そして職員とともに学び育ち合えるあたたかな園づくりに努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

園名等変更

●倉敷地区
(旧園名)三和保育園
↓
(新園名)保育所型認定こども園 三和保育園



ちまた

近年、インターネットやAIを活用し気軽に情報を調べたり、相談したりできるようになり、とても便利な時代になりました。様々な考え方や解決方法を知るきっかけとして活用することは、とても役立ちます。

子育てにおいて、「なかなか言うことを聞いてくれない」「この対応でよかったのかな」など、不安や悩みを感じる場面がたくさんあることでしょう。そんな時ついスマホに手を伸ばし、情報を得ようとしてしまいます。しかし、子どもの性格や成長のペース、家庭環境は一人ひとり異なります。そのため、画面に出てくる答えが、そのまま自分の子どもや家庭に当てはまるとは限りません。本当に必要なのは、お子さんの様子を一緒に考え、悩みを共有することではないでしょうか。

保育園、こども園の先生は園でのお子さんの姿を毎日見守っています。また、同じように子育てをしている保護者の方や、子育てを経験してきた地域の方々からの「うちも同じだったよ」「そんな時期もあるよ」という言葉に心が軽くなることも少なくありません。

子育ては、一人で頑張るものではなく、多くの人に支えられながら進めていくものです。困ったときや迷ったときは、インターネットやAIに頼るより、まずは身近な人に声をかけてみて下さい。園の先生も、保護者の皆さんが安心して相談できる身近な存在でありたいと考えています。どんな小さなことでも、一緒に考え、お子さんの健やかな成長を共に支えていきましょう。



子どもの生きる力をのばそう

生きる力



非認知能力って何？

生まれつきではなく、教育や遊び、毎日の生活を通して身につく力。0〜3歳までの間に、大きく育ちます。

やり抜く力

- 忍耐力
- 自己抑制
- 目標への情熱

人とかかわる力

- 社交性
- 思いやり
- 敬意

感情をコントロールする力

- 自尊心
- 自信
- 楽観性

☆非認知能力を伸ばすための3つの基本原則☆

1. 安心できる環境（安全基地）をつくる

- 大人でも子どもでも、安心感があると挑戦しやすくなる
- 否定されない環境は自己肯定感の土台になる
- 子どもなら「応答的な関わり」、大人なら「心理的安全性」が鍵

2. 適度な挑戦と失敗の経験を積む

- 今の能力より「少しだけ難しい」課題が最も成長につながる
- 失敗は「やり抜く力」「回復力」を育てる重要な材料

3. 結果ではなくプロセスを認める

- 「頑張ったね」「工夫したね」と過程を評価する
- 内発的動機づけが高まり、継続力が育つ

年齢や立場に応じた具体的な関わり方を積み重ねることが最も効果的です。非認知能力は大人でも子どもでも伸ばせる「一生育つ力」であり、日常の習慣や経験の質がそのまま成長につながります。

子ども同士のかかわり

大人との信頼関係をもとにして、子どもはほかの子どもとかかわり始めます。そしてこのかかわりを通して心と体を発達させ、たくさんのことを学んで行きます。

0〜1歳

大人との１対１のかかわりを通して、基本的信頼関係を学ぶ。



1〜2歳

ほかの子に関心を示し、表情をまねしたり、はいはいで接近したり、同じおもちゃを手にしたりする。



2〜3歳

自分のやりたいことを主張する、おもちゃを取り合うなど、友だちとの欲求のぶつかり合いを体験。大人に共感してもらい、気持ちを代弁してもらいながら、次第に自分とはちがう、相手の気持ちを理解していく。



4〜5歳

友だちといっしょに遊んでいく中で、自己主張すること、相手の気持ちを理解すること、我慢することができるようになる。小さなトラブルや課題は、自分たちで解決できることも。

Q どの能力から伸ばすべきか

非認知能力は相互に関連しているため

- **自己認識**：自分の気持ちや考え、得意なこと・苦手なことを理解する力
- **自制心**：やるべきことに集中したり、気持ちをコントロールしたりする力
- **持続力**：あきらめずに、最後までやり抜く力
- **社会性**：人と協力したり、思いやりをもって関わったりする力
- **レジリエンス（回復力）**：困難や失敗から立ち直り、前向きに進む力



これらの力は、一つずつ積み重なり、つながっています。

土台となる「自己認識」から育てることで、将来の「回復力（レジリエンス）」へとつながっていきます。

子どもの成長を、長い目で見守り、温かくサポートしていきましょう。



子どもの「生きる力」を、一緒に育てていきましょう。

大人のかかわり

	0〜1歳	1〜3歳	3〜6歳
どんな時期	すべてのことに保護者のケアが必要	● ケアが必要 ● イヤイヤ期が始まる	運動機能や自発性が向上
大人のかかわり	● 成長に応じた生活リズムづくり ● 子どもと触れ合い、たっぷり遊ぶ	● 子どもの気持ちを受け止め、選択肢を示す ● 外遊びや友達との遊びを大事にする	● 子どものやりたい気持ちを受け止め、ものの使い方や方法を教える ● モデルとしての保護者の役割を自覚する
何が育っている？	基本的信頼感	自律性	自発性

子どもへの声かけ　0・1・2歳

0歳〜 行動の前には必ず声をかける

急いでいるときにも無言は禁物。「○○ちゃん、おむつ替えようね」など、名前を呼んで次にする行動を説明しましょう。

1〜2歳 気持ちに共感する

「うれしいね」「悲しいね」など、子どもの思いを言葉にしていくことを繰り返す中で子どもは大人への信頼感を深め、また言葉を覚えていきます。

2〜3歳 プラスの言葉で

「上ってはダメ」ではなく「下りようね」と、肯定的な言葉をかけましょう。「ダメ」と言われ続けると、主体的な行動ができなくなってしまいます。



2〜3歳 子どもに考えさせる

「こういうときはどうするんだっけ？」「どうすればいいと思う？」など、子どもに考えさせるような言葉も効果的です。

子どもへの声かけ　3・4・5歳

具体的に話す

「○○しなきゃダメ」ではなく、「○○だからこうしてね」とその理由を説明。「早くして」ではなく、「いつまでに」を伝えます。

期待をふくらませる

出かける前にトイレなどの用事をすませてほしいときは、次の行動を楽しく説明し、「そのためには……」と今やってほしいことを伝えます。



気持ちを代弁する

けんかで感情が高ぶって泣いているときなどは、「こうしたかったんだよね」など、その気持ちに寄り添い、代弁します。

子どもを褒める

「○○してくれてありがとう」「○○ができてすごいね」と、その場で具体的に褒めたり、感謝の言葉を伝えたりします。

提案する

「こうしなさい」「やめなさい」ではなく、「こうしたらどう？」「こうしてみようか」「こういう方法もあるよ」と提案します。